

## がん看護専門看護師の卓越性 — 役割機能の獲得プロセス —

新潟医療福祉大学看護学科・塚本康子, 金谷光子  
元新潟医療福祉大学看護学科・新谷恵子

### 【背景】

わが国では平成8年に専門看護師資格認定制度が始まり、平成25年8月現在で登録者数は1044名に至っている。本学大学院でも養成しているがん看護専門看護師は最も多く、全国で432名登録されている。専門看護師の役割である実践・教育・相談・調整・研究・倫理調整という活動への期待は大きく、実績も評価されつつある。しかし「平成18年がん看護に携わる専門看護師の活動状況調査報告」では、専門看護師としてのやりがいを感じている一方、23%の人がやりがいを感じないと答えている。その要因として、専門看護師への役割期待とやりがいの間の葛藤が指摘されており、専門看護師自身が組織の中で役割を開発していくことが課題、とされている。このことについて、Hamricらによる役割開発過程によると、わが国の専門看護師は役割開発の初期の過程であり、自分の役割を明確にしながらか統合の段階に向かっている段階、と説明されている。専門看護師に期待される活動を明確にしつつ、臨床の実情に合わせた役割の開発が必要であるが、役割機能そのものに注目している研究はまだ少ない。

そこで、本研究では、専門看護師の卓越性に焦点を当て、がん看護専門看護師が求められる役割機能をどのように獲得していくのかを明らかにする。

### 【方法】

対象者は、研究の主旨を理解し協力が得られたがん看護専門看護師2名とがん看護専門看護師課程の修了者1名、看護学を専門とする教員4名で、方法はフォーカスマーケティングとした。がん看護専門看護師の役割、卓越性について語ってもらい、許可を得てテープに録音した。逐語録に起こし、内容分析し、カテゴリー化した。倫理的配慮として、新潟医療福祉大学倫理委員会の承認のもとに行い、同意を得られた者を対象とした。プライバシーの保護とデータ管理に留意した。

### 【結果】

分析の結果として、「大学院入学前に身につけている準備」「大学院での学習」「大学院修了後の実践活動」に分類した。「大学院入学前に身につけている準備」としては、社会人として持っている基本的態度、何かに秀でていること、一般的な調整能力、豊かな人間性、患者・家族への適切な対応、疑問を解いていく主体的な学習態度、といったジェネラリストとしての卓越性が身につけていること、があげられた。

「大学院での学習」としては、理論を実践に生かす、理論と実践を融合させる、経験知を裏付ける、病状を理解する、

人の苦痛を理解する、患者を信じて待つ、正しい判断、総合的な判断能力、他職種に対する理解と連携、教育力、志の高さ、があげられた。特に実習での学びについては、「すべての武器を全部取られた中で丸裸にされる」という状況で、つらいと感じつつも、ゆっくり時間をかけて、自分の弱み・強みを知った、という。その結果が、患者さんと向き合う姿勢に繋がっていた。

「大学院修了後の実践活動」では、高いアセスメント能力、患者を全人的に理解する、成功体験によってスタッフに認められる、卓越性を周りが認める、実践しながら研究する、疑問を検証する、があげられた。

### 【考察】

大学院を修了した看護師がすべて専門看護師として登録されるわけではなく、わが国では資格認定制度である。申請し、能力を認められた看護師のみが専門看護師として登録される。大学院はすべての看護師に門戸は開かれているが、6つの役割機能を果たしていくためには、まず看護師としての能力が基盤となっていることが明らかにされた。入学試験での選抜における一つの指針として示唆された。

大学院では、専門看護師として必要な教育課程が組まれ、単位が取得できれば修了する。しかし、認定を受けるためには、課題を自らで達成していく主体的な学習姿勢や、志の強さ、自ら専門看護師として役割を獲得していくパイオニア精神が求められる。大学院は専門看護師としての資質を問われる場でもあるといえる。

専門看護師は、臨床看護研究を実施していくのが困難で、「文献検索と入手」「資金不足」「時間がとれない」など研究体制の問題があがっている<sup>1)</sup>。今回は明らかにはならなかったが、看護研究への知識やスキルの教育ニーズが高いことから、さらに研究への教育を強化していく必要があると考えた。

### 【結論】

- 1) がん専門看護師は、大学院入学前にジェネラリストとしての卓越性をすでに身につけていた。
- 2) 大学院で学ぶ中で、専門看護師としての専門性や卓越性を理解し、実習をとおして自己を知り、患者と向き合う姿勢を身につけていた。
- 3) 大学院修了後は、高いアセスメント能力・患者を全的に理解・実践の中で研究・疑問を検証といった役割機能を獲得し、実践しながら周囲にも認められていた。

本研究は、平成23年度新潟医療福祉大学研究奨励金学長裁量研究費の助成を受けて行った。

### 【文献】

- 1) 河野あゆみ, 萱間真美, グレグ美鈴: 専門看護師, 認定看護師, 教育担当看護師における臨床看護研究の教育ニーズの実態. 日本看護学教育学会誌 2007;17(2):31-40.